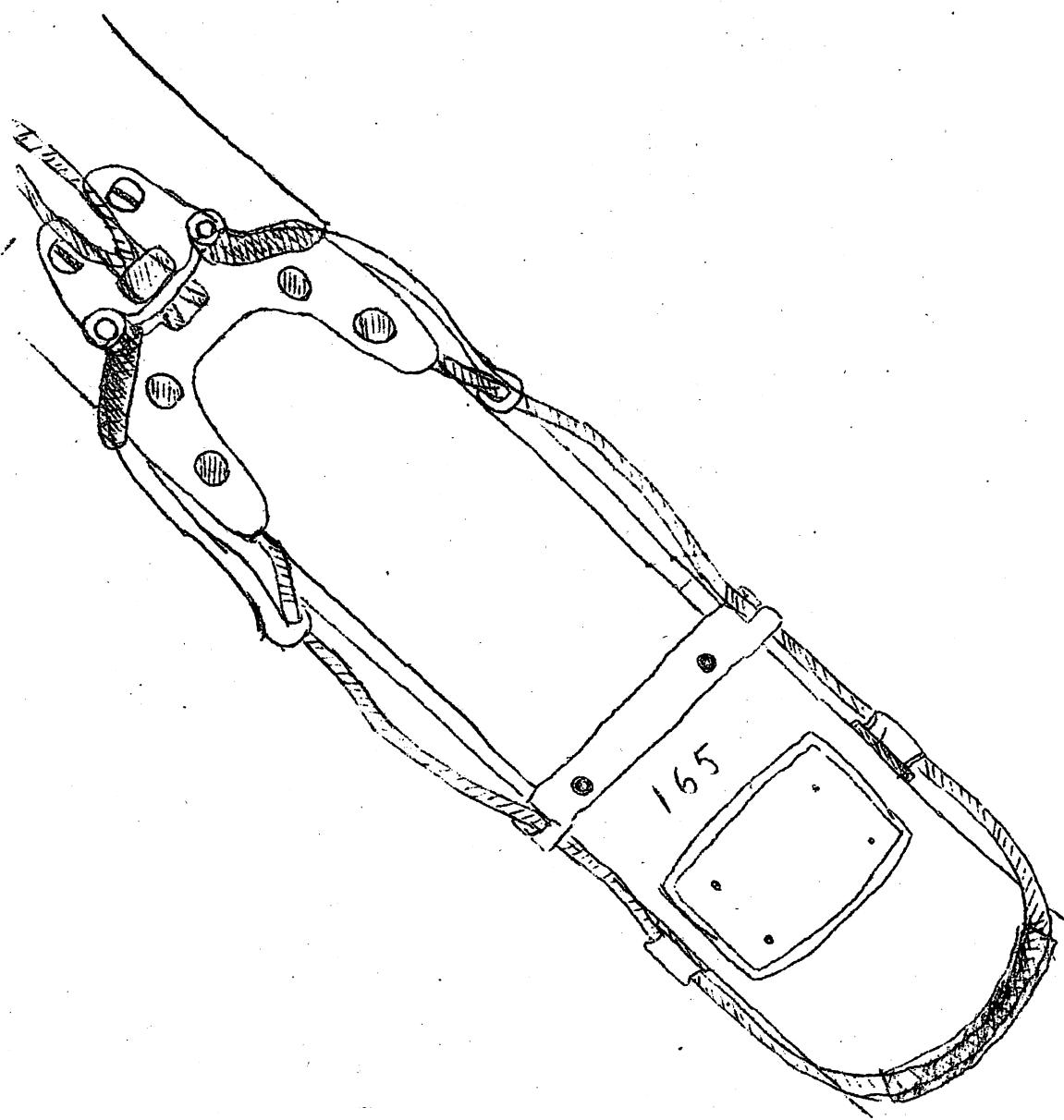
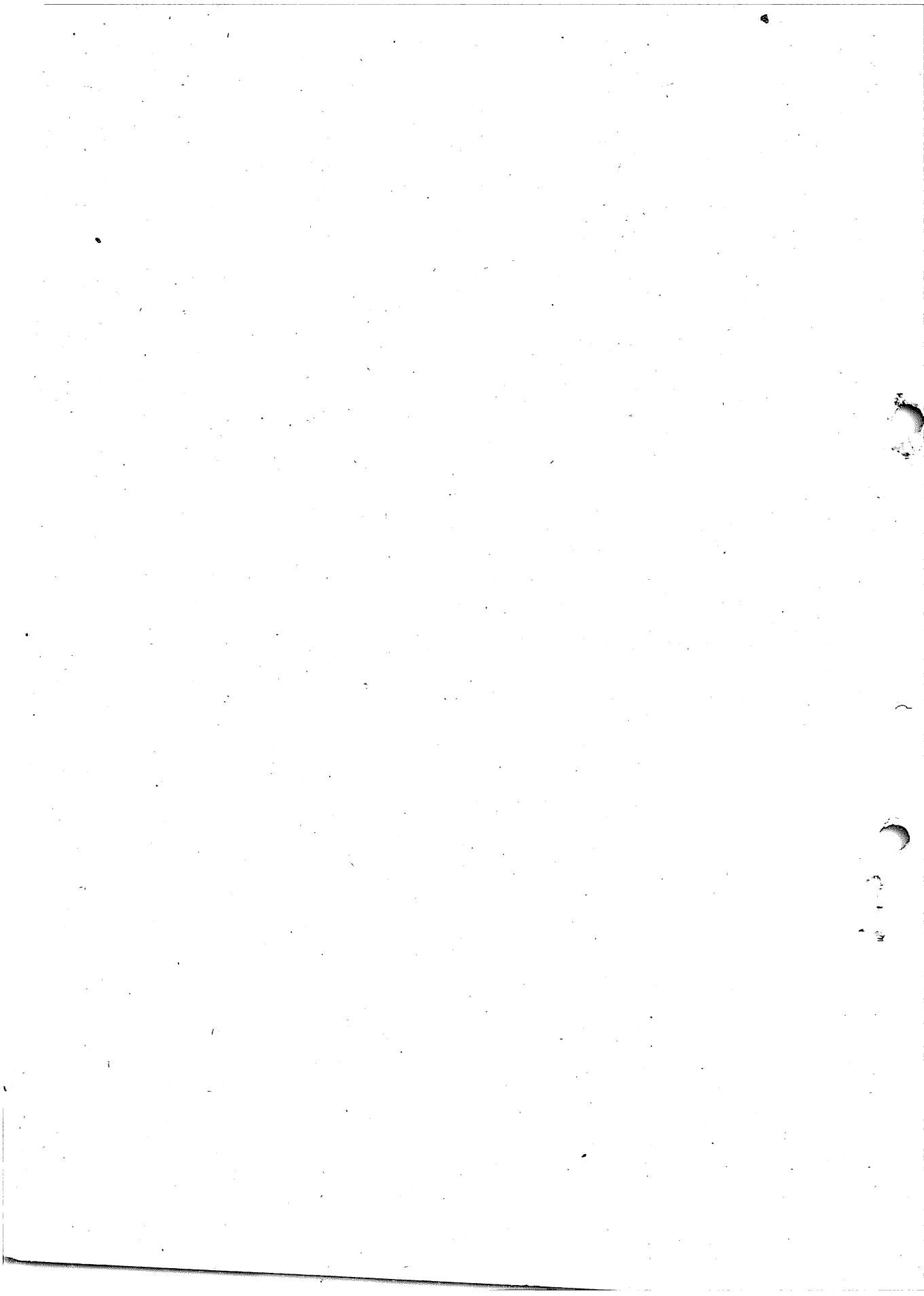


1977

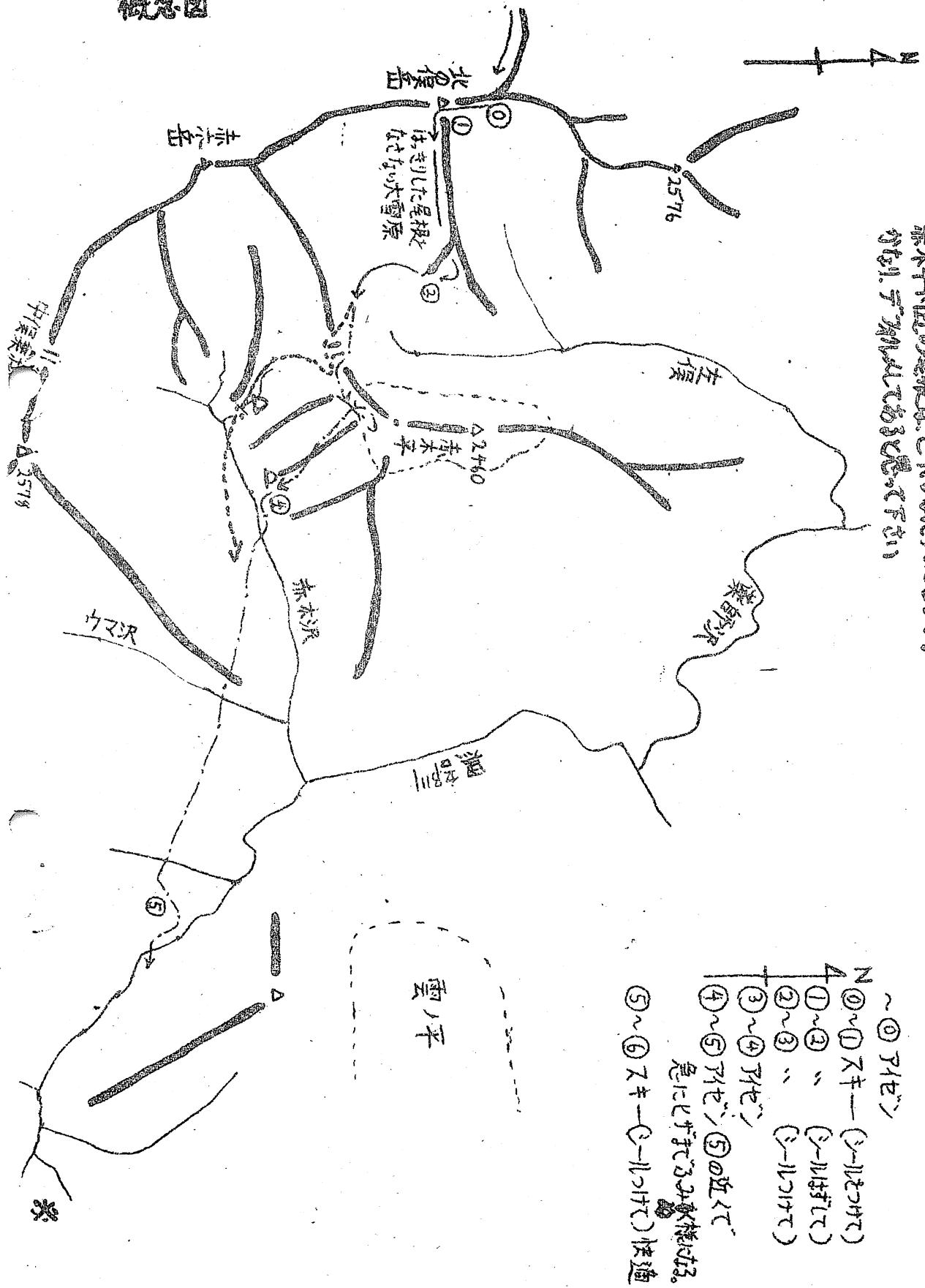
黒部源流

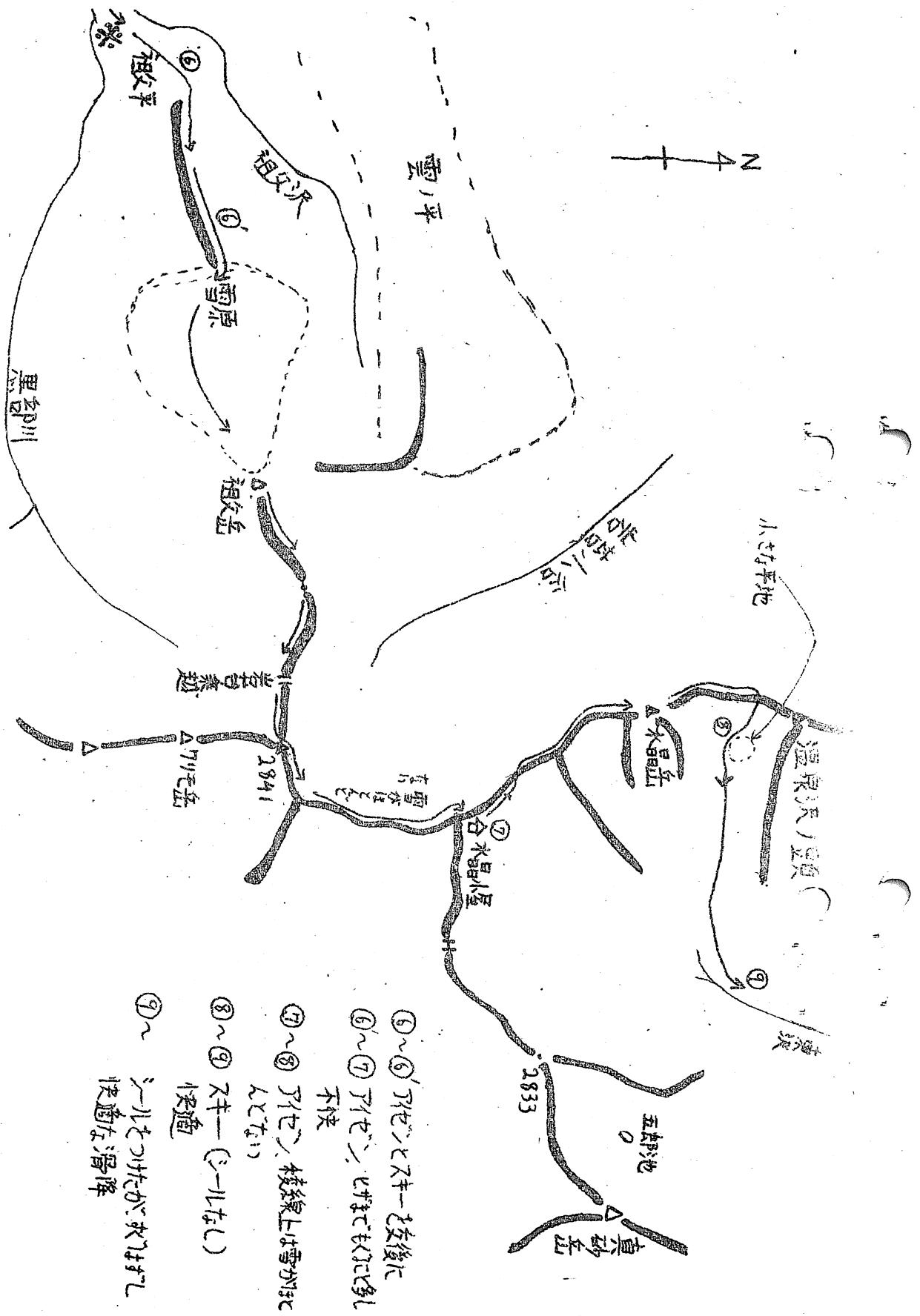
ズキ山行





本草綱目





黒部源流を終えて

二度目の黒部源流(鏡ヶ湖)を予定通り終えることができ
とっても満足。僕の持つていた券の1つにやっとビリオド
を打つことに本でうれしい。

中島と2人だけで北アルプスの山奥に入りこむ。と“う
”と、入山前はさくじん船がったけむらはさんを気持
ちなつかしい。思えば、ホオ平下門して源流へ、そして用
ぬより次々と下門するという、いわば“下への志田”を用
意した毎回の山行は、スタートは上級者2人だ、だが
了しあ見よく逆行でまたのカモしれまい。(でも、ヤーバリ
1回生なんかたも奮闘してほしがったが)。

2回の車に上の席下駄箱、あれ環境に下駄、3回の車
の環境もおした山行、そして今度の…とこれまでのことを
1つ1つ“3”で並べながら聞く。この5月には多々の
山行をまとめて水晶東西のリッジで登りにも行、たし…。何
か1つのこととやったと思つても何ゆき、また高尾山の
解説が3回あるれば4回になら。1つの山行の難めりす、新
た春竹林の出発点に、僕の内に新たなる夢を形づく、くわう
を負う。

“つまでもつまらぬ”感傷に正直、22の山もうやめ。
でも本当に3ヶ月のこと、あ、たまたま2月。10月の
チグサ山行に失敗したこと、黒部湖アラスカと未練してお
か、たゞ健遊野舎の既日するんじや来りかと眞剣に悩
がこと。今では笑い話ですむけひ山行中も本当にしんむ
か、たゞ精神的)もんじまくの夢真く健遊行く、2)
ギリギリまで大山行だ、たまごと見る。

(最後に、3月の黒部湖の様子、黒田ダムの水没水位
で予想通り行合の方に“3”“3”“3”“3”ました。どう
もありがとうございます。おかげで物語を重ね、ますます好きになりました。)

<おわり>

77春山 黒部源流 party. 終了。

山野の信人 (83-II)

中島 雅志 (数2-II)

新井 勝彦 (数2-II)

行動記録

3/5 桂木一富山。

桂木を9時出発、富山で 10時 247-7.

16. ①→② 富山→神通里駅、
新潟方面～新潟東道 11:10～富山 1:40

新潟都内まで9つこーに入る。入山の途中、飛行機への
予定をかき消すオのようになんじんすすめ富山まで行
く。Rakのすぐりでに寄宿を作る。

17. ④→③

朝、空。視界を悪く強風とす。

18. ③→④

朝はケイ松原をさいたが風が強くなく桂木平へ下向
も不十分なのでケンカとも北の保育園見土るもひ弱力とす
る。このうちオス城くあり、おやけたれ、だんで保育
施設とする。明日半速で走り4つで1ラ1ラ12<3。

19. ④→③→①

昨日オス城く、今モリ波と思ふても。SHのつづれ
がひびひんで御前ざより脱片断しのをかります。
そ、と断しのオアシタと思つたオスオカホビの儀が
見ええてくる。妙鳥鳥、候ぬやうが、たのに...。しまう
がまひんで断しのSHでお風かまし甲第、830出發。北の
風への長々走りに思ひ立せ川のまち競艇場です。北の風より
東へ走らして尾根下ルートをとる。スキーパー^アツコのに雪變が悪くしんどい。越後平野をひらう。
妙鳥城と別町、ルートをオヌ平よりオヌ坂へ向く方へと
る。妙鳥城を尾根と有がつひが木次源頭附近へ下向。
水路を正面に見すとこくま山で作ることにした。240
行動前之處へといたる裏面が下りた。

北アのひまん中にハコと床と、オオガニ魔物をすり
つくる。

% → 0

6:15. 食事セラムをする。オオシマツヘンテスアゲンツウル。スターをガフグ。赤木坂を越え、うま坂をトラバース。オガジヅくあたりカリスナーフリ深處に残りカツ。木本坂と五番坂の中点あたりだ。深處の山で駄馬出す。山道にリ草多く、スタークリ、ジオド上パン食之る。ずっと深處地にすすみ、駄馬未だ平。そこから柏谷へ。柏谷の状態悪くスターはいたり引けたり。柏谷モヤシ、ビの花リで掛かる。柏谷モヤシニアのアレナーレスモタリビサヘニ。でも良オ、大、6-2。駄馬森ホホセハ風々ギリうにまし合った。駄馬柏谷。3万円前後キリヤ。もうカクマ奈、て水品出ます。まうやくの思ひで山あい山屋に泊、たのび246m、先、オマジンド。モ、先も泊、て山屋に入る。水品作業は何のためにヨリキ取るオ、セリ放棄。

三

次第、例せうんじて出迎れ。ついで小鹿を獲れた。しかも
おまけに、アカギのPeak、北アオサギから捕まえて貰ひた。それ
だけには、アホウドリからうなぎ。そして雷神湖で根元から、2つ
Peakありて、迷見沢の頭の水と中湖のスルカリ、カルダハで用
する。上部の兎などこで獲り下す。チワシ...。やまもと
アスナ-トヨタマキあまくわせ見かけたがち在地名えの-い。
地アのひまん中で有せしの2パラセルガトマのをひ
じられ甚。然る東洋人とびたる。大休止。山の近く木と樹を
あげ東洋を下り去る。入一ナリジともに左に奥、アスナ
ロム湖をなぞる吹、とばす。あ、といふゆに東洋の山
くろいとすがりき。お腹。下をもの見てえうす。ホ
ストフル野原を走り来ゆる。お風呂。ハツハツ
モッカヒルはむしれたりたし。ほの暮れ時刻。お
あぐ。車の運転でのあ延々車に入る。とさすが、お
とつた大學が寄生した。てて通算にしめば。林か
りで、やがてしんじ。危険をのぞめぬと放棄。此處の
川せい黒龍川で、さすがにアヒルの卵の壳。お咲状のと
こで多く。物でこんなに...と思ふと頭がでてきやうな
った。(お段もんを思)と(お段もん)にー)靴の
をコガ替わる。のうう今かにてんのガ太東は雲那野
の起で今もおもむサケないんで古い書系になつてゐること

かかる。轟きく雪の進くる心象的！ ！ 廉鏡の中ではオホカだ
と叫さずか、てくる。角度でもめたってせるという風にもある
てくる。西ひた角へ進み、雪の進くをうとうと雪原を中心と
して、スキーレーストボボ、ゲートが飛びかびしくそれたる雪
原をあがねて進く。そのうちお出まり時、木を3しきキの
ガ入、てくる。正面にゆき坂西電波を見つくる。しかし
左肩に月平の小屋を見ない。小屋がなくてたゞのでなく
いう思ひがでてなくさ、想思が東側に隠の中をかけめぐる。で
もみ、先、はるか上方の方に…ドッサ但当は京都駅の庭に…日
本。水邊してた木が流れ等をさらしてい。重より北海大
20m以上下が、てて。3度目の直角、飛沫びつかり草の小
屋へ到着の足り、1月1日雪もやっつしてく。朝0.7
とある。見あつす京都の玉藻はまだに真朱。また、小屋の中
で火をたき、太陽の氣とする。一日は遠方に人未だ、木葉
を落す。さんでは、これが京都駅の日となりて雪をかきする
のである。と云つて北山川に改めて立つ。

卷之三

せんそく。天皇に会ったが、お詫びを述べた。ひたすら頭を下す。

25

5. 小屋を後にして黒谷川へ向う。船の速さで、
まわりは荒い。波濤がく不気味。一隻の舟が走る。
へむかう。10:30 ラムナイトにて、ラムナイトはアーヴィ
ゲームズでヨリ。11:00 朝。本日もまたアーヴィ
エードのアーヴィ。トマスもアーヴィ
が行く様に、たとて馬で馬で来た。アーヴィは、
要に馬車の事。マイルでエードの馬車にて、3、4に
り大町まで乗。11:20 まろう。ここでまた馬車乗車
40分、アンガトサント。大町から飛車へかかる。飛車
飛車にて走して走る。飛車走る。30分でモント
モントリオールへ。バスで、モントリオール

第二章 现代汉语词典

スキーの有効性をはじめ充分な山行だなどと思ふ。
来年の春ま、先にスキー山行をしたい。 中山